

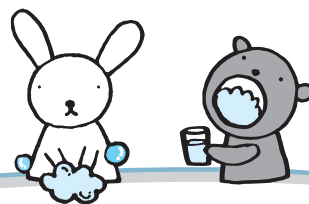


★新型インフルエンザに気をつけて!★

国内でも新型インフルエンザの感染者が確認され、感染の拡大防止に努めなくてはなりません。私たちにもできる予防方法を紹介しますので、心がけましょう。

☆ 新型インフルエンザも、下記のような通常のインフルエンザの予防策が有効です。

- 外出時にはマスクをする
- 咳エチケットを心がける（咳、くしゃみが出る場合には、ティッシュやハンカチなどで鼻や口を押さえ、飛沫を飛ばさないように心がける）
- 帰宅時には手洗い、うがいをする
- 睡眠を十分に取り、栄養に気を配る
- 室内を適切な温度や湿度に保つ
- なるべく人込みに出かけることを避ける



☆ 万が一、発熱や咳など感染等が疑われる場合には、まず松山保健所の相談窓口にご相談ください。

松山保健所	相談専用電話（休日・夜間を含む）	089-909-5057
	次の電話番号も平日8時30分から17時15分までは相談に利用できます。	089-909-8757

問 健康課保健センター係 ☎985-4118

ふるさと歴史散歩④

大森彦七ゆかりの地を訪ねる

（松前史談会レポート）

大森盛長彦七は、延元元年（1336）の「湊川の戦い」に、足利尊氏方の水軍の武将・河野通盛に従い参戦した。35歳であったという。「太平記」はこの時の彼について、「手痛く軍し、楠正成に腹を切らせし者なり」と記している。大森彦七は、この時の戦功により砥部庄に合わせて松前庄を領することとなった。大森氏は、長年にわたり砥部千里城に拠りこの地方を支配したが、天正10年（1582）、21代にして城を去った。谷上山宝珠寺には彦七の甲冑、大山祇神社には彼の野太刀が奉納されている。子孫の記録としては、大森子陽（良寛の師）や北条の蓮福寺に小川氏の名が残る。「大事金蓮寺」や「矢取川事件」の伝承もあり、松前史談会が重ねて砥部町に大森彦七の史蹟を訪ねるのはそのためである。

① 赤坂泉

まずは、ここで腰をおろして本日の作戦会議。昔は、頂に八倉城があったという金生山を南に見る。重信川の堤にあがると爽やかな風とすがすがしい川面。泉の語る歴史が、1日の元気をくれた。ここは桜の名所でもある。

② 大森彦七供養堂・新供養堂

正徳2年（1712）、麻生の庄屋田中権内が五本松村や川井村などから協力者を得て建立した。彦七は、誠心無比・大力無双といわれた英雄であったが、南朝正統論が強まると楠正成を討った逆賊と見なされた。供養塔の塔身が3つに折れ、関係資料が極端に少ないのはそのためだという説もある。新供養堂は、最近になって近くのわかりやすい場所に建立された。

女負うて川渡りける朧月 正岡子規
道ばたに大森彦七曼珠沙華 富安風生
彦七の塔とて露の律かな 村上霽月

以下は次号。

6月13日（土）は、「松山市松前町」を訪ねます。8時30分、松前町役場南駐車場集合。

問 松前史談会（鷺野）☎984-5439（080-5666-5439）



▲大森彦七供養塔
3つに折れた塔身の説明をする篠崎副会長



▲新供養堂
公園風に整備され、「陶街道五十三次」の幟が見える。